

## 2023年度 卒業生アンケート結果

対象 20期生 93名（令和5年度卒業予定者）  
調査期間 2023年12月15日（金）～2024年1月31日（水）  
方法 Formsによるアンケート調査  
回収率 100%（回答者数93名）

### 1. カリキュラム評価について

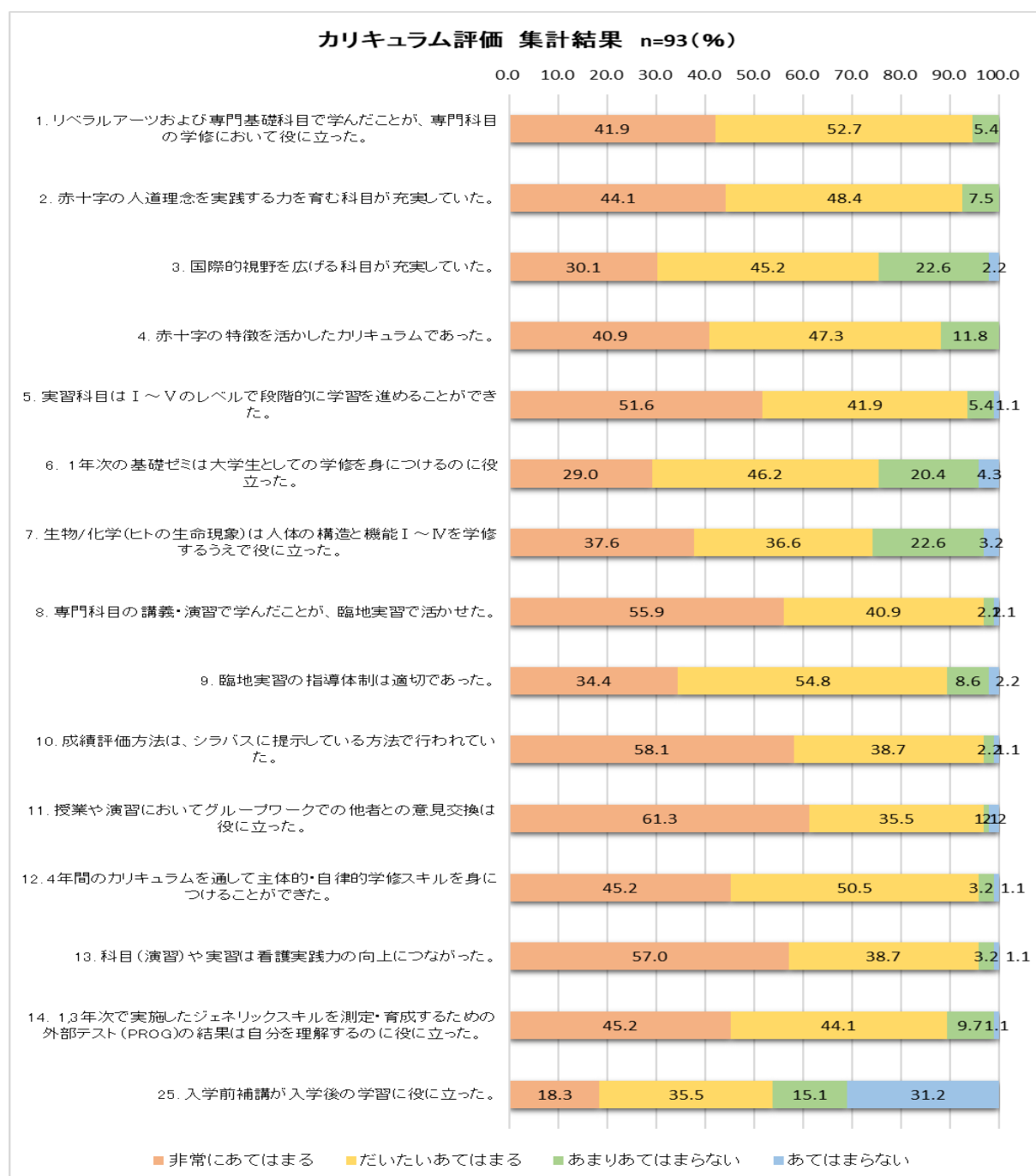
概ね評価は高く、特に「8. 専門科目の講義・演習で学んだことが、臨地実習で活かされた」、「10. 成績評価方法はシラバスに提示している方法で行われていた」、「11. 授業や演習においてグループワークでの他者との意見交換は役に立った」、「12. 4年間のカリキュラムを通して主体的・自律的学修スキルを身につけることができた」、「科目（演習）や実習は看護実践力の向上につながった」は評価が高かった。理由として、専門科目の復習をしながら実習に取り組み、演習で学修したことを臨地実習で実践できたこと、メンバーと意見交換をしてアドバイスをお互いにするなど役に立つことが多かったとの意見があった。

評価が低い項目は、「25. 入学前補講が入学後の学習に役に立った」であり、“あまりあてはまらない” “あてはまらない”の合計が46.2%であった。理由として、コロナ禍で入学前補講がなくテキストをいただいた事しか記憶にないとのことであった。次いで、「7. 生物/化学（ヒトの生命現象）は人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳを学修するうえで役に立った」が低く、理由として、高校時代に生物/化学を履修している学生は高校の時に習っていたものだったので、大学生になってまた同じことを勉強する必要はないとの意見であったが、生物/化学を履修していない学生は生物や化学の授業は学習難易度が高く感じられたとの意見があった。入学前補講では生物/化学を履修していない学生の学習支援が必要になると考える。

#### 【自由記述の抜粋】

- ・リベラルアーツ専門基礎科目や人体の構造と機能に関しては、役に立った理由として、基礎的知識が専門科目に活かされ、学年ごとに基礎から応用まで順序よく学ぶことができたと感じたとの意見があった。
- ・赤十字科目の充実に関しては、赤十字関連の内容について集中して学ぶ科目があり、赤十字の人道理念を深く理解する機会を得られ、赤十字の一員としての自覚がついたとの意見があった。
- ・国際的視野を広げる科目の充実に関しては、様々な教員からの実体験を聞き海外で活躍したいと思える機会となったとの意見があった。特に国際コースでは国際分野の科目は充実していたが、コロナ禍で海外研修がなくなり実際に体験する機会が減少した。
- ・1,2年生の時は臨地にほとんど行くことができなかつたがその中でもコミュニケーションの取り方や看護過程を学ぶ機会があったことで、3,4年生の実習は自らが立てた目標を達成することができたとの意見があった。また、専門科目で学んだことを実習で活かすことができる講義・演習が多く、学びやすい環境を作り上げていたとの意見もあった。
- ・基礎ゼミでは、同級生との交流ができ、レポートの書き方等基礎的なことを学べた。

- ・臨地実習の中で教員や指導者よりフィードバックやアドバイスを受け実習をすることができたとの評価であったが、教員によって指導内容に差があることや担当教員との相性が合わなかった時に別の教員に相談できる指導体制への要望や意見があった。
- ・評価方法は、各科目で最初に説明があり、シラバスに沿って行われていた。
- ・グループワークは他の学生の意見や価値観を学ぶことができ、アドバイスをお互いにするなど役に立つことが多かったとの意見があった。
- ・主体的・自律的学修スキルは4年間のグループワークや実習で身についた。
- ・PROGは自分の強みや弱点を分析、理解することができたとの意見があった。また、PROGの結果をもとに自己の振り返りや就職活動に活用できた。



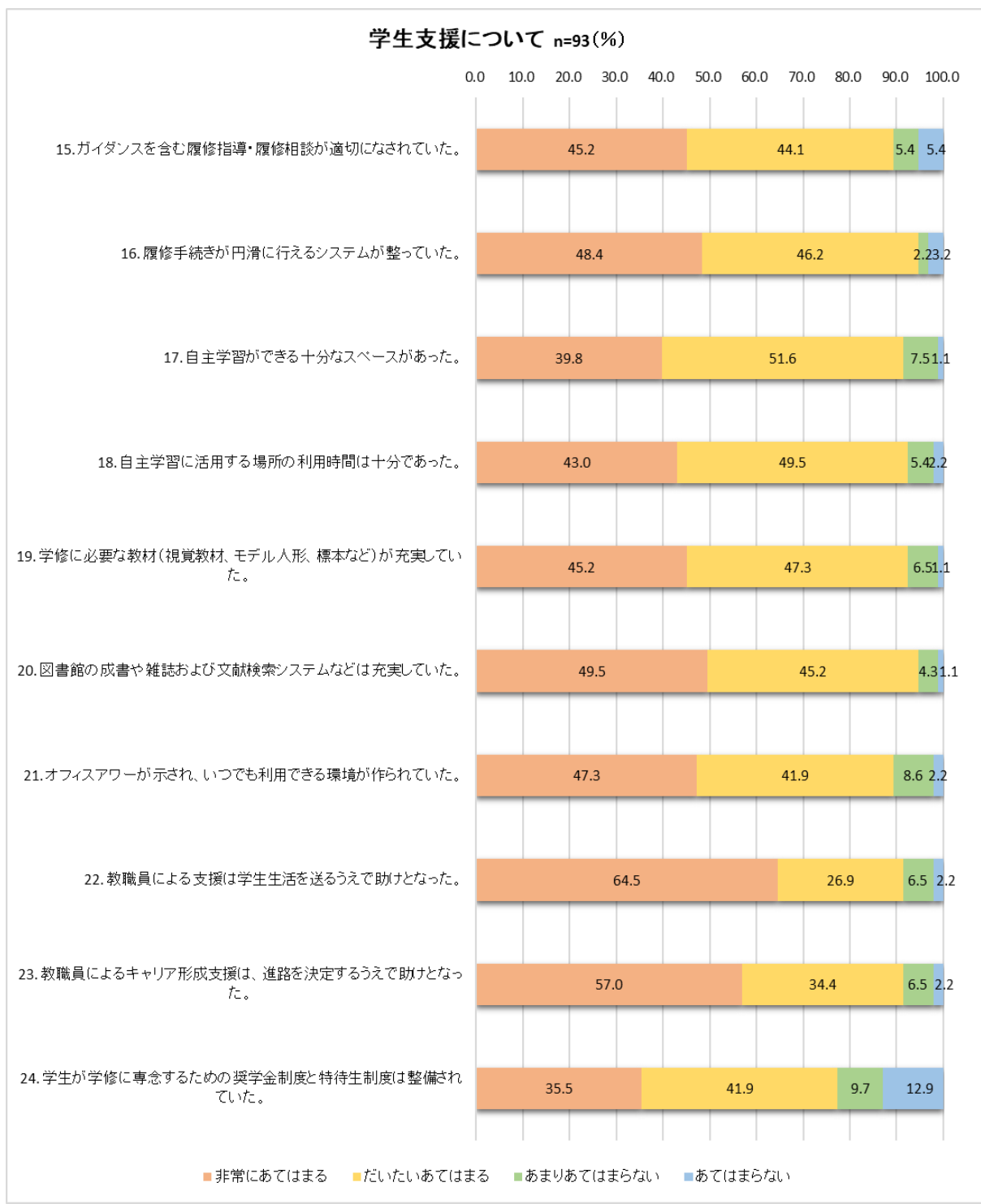
## 2. 学生支援について

概ね評価は高く、特に「22. 教職員による支援は学生生活を送るうえで助けとなった」「23. 教職員によるキャリア形成支援は、進路を決定するうえで助けとなった」は評価が高かった。理由として、AAの先生には進路相談や学習相談など様々な相談ができたことや、AAとともに事務の人にもお世話になったのでサポート体制は良いとの意見があった。また、教員と進路についてしっかりと話すことで自分の将来について考えることができたとの記述もあった。

評価が低い項目は「24. 学生が学修に専念するための奨学金制度と特待生制度は整備されていた」であり、“あまりあてはまらない” “あてはまらない”の合計が22.6%であった。理由としては利用していないため分からないとの意見が多かったが、大学の学費と奨学金制度を鑑みたときに300万を超える借金を背負う人が多数存在する故に、将来のことを考えて借りる奨学金を極力抑えていた人も少なくないと考えられる。そのため、学習に支障が出た人も多くいるのではないかと感じているとの意見や、もう少し奨学金枠を増やしてほしいとの要望もあった。

### 【自由記述の抜粋】

- ・ガイダンスを含む履修指導・履修相談について、ガイダンスやポータルでの操作方法の説明もあり、システムは整っていると感じた。選択科目の中でその後の進路に影響する科目は一覧で欲しかったとの意見があった。
- ・自主学習のためにラーニングコモンズや図書館を活用できたとの意見もあったが、一部で空き教室を自習スペースに使用したいとの意見もあった。空き教室は自分自身で予約すれば、勉強スペースは確保出来た。
- ・学修に必要な教材（視覚教材、モデル人形、標本など）の充実により、演習は臨床の場がイメージしやすかったとの意見があった。
- ・図書館やポータルなどで文献検索システムは充実していて、使い方をしっかりと教えて下さり、助かった。
- ・オフィスアワーが示され、相談したい時に先生に相談することができていた。
- ・AAの先生には進路相談や学習相談など様々な相談ができ、事務の人にもお世話になったので、サポート体制は良いとの意見があった。
- ・教員と進路についてしっかりと話すことで自分の将来について考えることができたとの意見があった。
- ・学生が学修に専念するための奨学金制度と特待生制度については、日赤関係の病院に就職する際はすごくいい制度で整備されているとの意見があった。



### 3. 評価

カリキュラム及び学生生活の支援体制に関して、概ね学生からの評価は高かった。

前年度の評価と比較して、回答の割合には大きな差は見られなかった。前年度に引き続き“あまりあてはまらない”あてはまらない“の回答が多い項目は「7. 生物/化学 (ヒトの生命現象) は人体の構造と機能 I ~IV を学修するうえで役に立った。」25.8% (令和4年度 33.3%)、「25. 入学前補講は入学後の学習に役立った。」46.3% (令和4年度 29.6%) であった。生物/化学を履修

していない学生は生物や化学の授業は学習難易度が高く感じられたとの意見があった。生物/化学は国家試験勉強を進めている卒業前の状況でも、当時学習した内容が残っており助かるとの意見もあり、入学前補講として生物/化学を履修していない学生の学習支援が必要になると考える。

AA を中心とした教職員による支援、健康管理、国試対策、キャリア支援、奨学金制度などの学生支援の取り組みについては、次年度も同様に継続していくこととする。課題として将来のことを考え奨学金を利用していない学生もいるため、実習前などのアルバイトの状況等も検討していくこととする。